

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
56

振興協議会だより

〔発行日〕令和4年8月31日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



津南町・栄村小学5年生の集合学習「地球の今を知ろう・私たちにできることを考えてみようーSDGsってー」

津南町には、津南小学校、芦ヶ崎小学校、上郷小学校の3校があります。そして、栄村には、栄小学校の1校があり、計4校の小学5年生による集合学習が7月20日（水）に行われました。テーマは、環境学習です。

講師に元WWF ジャパン自然保護スタッフの小森繁樹先生をお招きして、講演会を開催していただきました。

内容は、人類がエネルギーを多く消費して、現在の暮らしがあるということ。地球が過去に貯めていたエネルギーも使っていること、世界には様々な生態系があること、食物連鎖、生態系サービスなど地球について紹介いただきました。

けれども現在、地球は気候変動や世界的な森林破壊と森林減少、温暖化など様々な課題に直面していることも紹介されました。これを解決していくために、SDGsの紹介がありました。そして、一例として、人の住む家の傍で、昼休み時間帯など車がエンジンをかけたままで休憩していることが紹介されました。このことから、ガソリンという化石燃料の消費、排気ガスによる大気汚染と温暖化、さらにゴミを捨てていくことから、廃プラスチック問題までつながっているということで、世界的な問題が身近にあることに気付かされました。

これらの講演を聞いた子どもたちからは、多くの質問が出ました。後日、小森先生から各学校へ質問に対する回答を送っていただく予定です。

最後には、津南小学校5年生から「苗場山麓ジオパーク三択クイズ」をほかの3校の子どもたちに出題しました。内容は、苗場山麓ジオパークに関することで、担当者も悩む問題もありました。正解すると、各学校には、令和3年度に作成した「苗場山麓ジオカード★第2弾」がプレゼントされました。3年生、4年生でのジオパーク学習におけるこれまでの成果が試される機会でもあり、エリア内の全ての学校がジオパークに関わっていることが分かる1コマとなりました。

来年度以降も継続した開催を行う予定です。



小森先生の講演



三択クイズ出題の様子



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介⑩～

【純米吟醸「苗場山」ージオパークラベル春夏秋冬ー】

苗場酒造株式会社 〒949-8201 新潟県津南町大割野

☎025-765-2011 営業時間9:00～17:00 定休日:毎週水曜日

ジオストーリー

日本有数の豪雪地帯で、明治時代より受け継がれてきた伝統と技の酒造り。日本百名山「苗場山」の伏流水を仕込み水に、原料米には津南産五百万石を使用した純米吟醸「苗場山」は芳醇で旨味のある飽きのこないお酒です。



※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。
お問い合わせ：津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454



ジオラフティングの取り組み

日本一の大河である千曲川・信濃川は、水量も多く、起伏に富み、ラフティングを行うには大変魅力あるフィールドとなっています。ジオパーク的に考えると、通常、車や歩いて見る地質の露頭よりも川によって侵食されたさらに下層の露頭を観察することが出来ます。このジオ学習として地層を観察する目的と、スリリングなラフティングを絡めて苗場山麓ジオパークでは、「ジオラフティング」と呼称しています。

令和元年度から、ガイド研修でジオラフティングの試みを開始しました。苗場山麓を東西に横切って流れる千曲川・信濃川は、地形的にも地質的にも特色ある狭窄部に位置し、谷が深く、重機が容易に入れない流域になっています。

そのため流域では、ほぼ自然の状態が保たれ、このことは、ジオの要素を学ぶ上で、貴重な価値を保存しているということです。

ジオラフティングには、①天然のアトラクションでスリルが楽しめる、②チームワークが高まりみんなが楽しむことができ、達成感を味わうことができる、③地形や地質の要素になる地層や地形といったジオの要素が陸上だと見えにくいものが、水平な目線で観察することができる、④川原の植物や動物などのエコの要素や栄村小滝の運河跡、巨岩に刻まれた楔跡などから歴史時代の文化（カルチャー）やその変遷などの要素も垣間見ることができます。

ジオラフティングを開始したきっかけは、ラフティングの会社「日本アウトドアサービス」を経営する岩館氏が、平成30年のガイド認定検定を受検し合格したことによります。岩館氏は、苗場山麓ジオパークの自然の景観等を観光に生かす試みに興味関心をもっており、そのことからジオラフティングが動き出しました。

ジオラフティングを実施する上で、必要なことは、事前の場所の条件整備、コースの綿密な事前確認と打合せが必要になります。主催者とジオラフティングのコースを確認し、コースの見どころや途中で上陸する場所や回数、説明場所、危険箇所等の確認を行い、緊急事態への対応として、役場や消防署等関連機関に事前の計画書を取り交わしておくことも重要です。

実施時期は、水を浴びても寒くない6月から10月位の時期が適時であり、7～9月が最適です。

苗場山麓ジオパークでは現在、雪散歩、ジオサイクリング、ジオマラソン等のアクティビティを実施しています。また、町内では、毎年、駅伝競争大会や各種スキー大会等を実施しています。これらのアクティビティには、ジオの要素が必ず入っているので、諸々のイベントに対して、共催といった形でジオパークのアクティビティに包含していくことが望まれます。



NPO法人Tapとは、すでに連携し、雪散歩、縄文スノーハイクなどを実施しています。ラフティングは、近隣で数年前から動き始めていて、少しずつその人気は上がってきています。

さらに啓発と普及のためには、①認定ガイドへのジオラフティング体験の場を設定。②一般住民（特に児童生徒）への体験の実施。③関東圏、新潟市、長野市などの都市圏をターゲットに顧客の呼び込みを進め、相乗的に進めるとより効果が出ると考えています。コロナ禍の2年間、ジオラフティングは実施できませんでしたが、今年度こそは実施にこぎ着けたいと思います。



第8回 苗場山麓ジオパークフォトコンテスト作品大募集！

苗場山麓ジオパーク振興協議会では、第8回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。部門は「春部門」「夏部門」「秋部門」「冬部門」「暮らし・生活部門」「祭り・伝統部門」「動・植物部門」「学生部門（高校生以下）」です。★応募者本人未発表の作品に限り、1部門につき2作品まで。各作品に解説（200字以内）を付けてください。

- 画像データでの応募・・・データ容量15MB以下で、ファイルサイズ300万画素以上のJPEG形式のものとします。
苗場山麓ジオパーク専用サイト（<https://naeba-geo.org/photocon/>）よりご応募ください。
- プリント作品での応募・・・2Lサイズの作品の裏面に、苗場山麓ジオパーク専用サイトから応募票を印刷し、記入したものを貼付してください。作品は、原則返却いたしません。

送付先はこちらまで⇒ 〒949-8201新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835
苗場山麓ジオパーク推進室（農と縄文の体験実習館 なじよもん内）
ジオフォトコンテスト係

※プリント作品の返却をご希望の方は、返却先を明記した着払い伝票と返信用封筒を同封し、1点ごとに「返却希望」と朱書きしてください。

応募締切・・・2022年12月27日（火）17時（郵送での応募は同日必着）

詳しくは、チラシ、または苗場山麓ジオパークの公式WEBサイト（<https://www.naeba-geo.org/>）をご覧ください。
お問い合わせは、苗場山麓ジオパーク推進室・フォトコンテスト係（電話025-765-1600）まで。

入賞した作品の著作権及び版権は主催者に帰属します。

各ジオサイトの迫力ある景観やそれを楽しむ人の姿、ジオサイトと共に暮らす人の伝統文化、行事、ジオサイトに息づく動物や植物のたくましい姿など素敵な作品をお待ちしています。



ジオパークの印象 クランパート・マシュー(株式会社DISCOVER DEEP JAPAN / 湯沢町地域おこし協力隊委員)

ジオパークを最初に調べた時、私は少し戸惑いました。一般の観光スポットよりとても広く、多種多様な自然のワンダーランドだと気づいたのです。ジオパークの全てを1回で観光するのはとてもじゃないけど無理でしょう。既に3、4回訪れていますが、まだ見たことの無い場所がたくさんあります。このワンダーランドの近くに住むことが出来て、とてもラッキーだと感じます。以前、東京に居たときに住んでいた家は、郊外にあったので「田舎だね」とよく言われましたが、ジオパークの「田舎」はまた違った魅力があります。



クランパート・マシュー氏

初めて苗場山麓ジオパークを訪れた時に、マウンテンパーク津南にほど近い「樽田の森」の森林セラピーに参加しました。ガイドさんのおかげでたくさん学ぶことができましたが、森林セラピーは厳しいガイドが必要な活動ではありません。森に入る前に予約をして、行列に並ぶ必要は無いと思います。森は全ての人の為に解放され、どこでもリラックスできる場所であるべきだと思います。電柱や車の騒音が無い、緑豊かな所に行けば、無意識の内にリラックスするのは当然のことではないでしょうか。コンビニが1つも無い場所で、数え切れない数のブナの木を眺めてきました。ブナの大きい葉が作る木漏れ日のおかげで森は夏でも涼しかったです。様々な鳥、虫、植物をゆっくり楽しんでスッキリする事が出来ました。



また、別の日に見玉集落と龍ヶ窪に行きました。龍ヶ窪には水が豊富にあり、酒造りに使われているそうです。霧深い池は、雨のあと本当に美しく、森の中に神社もありました。龍神の存在は分かりませんが、いずれにしてもこのような場所が今も存在していて良かったと思いました。

見玉公園の周りには自然は「津南のグランドキャニオン」と呼ばれています。標高は高く、キャニオンは広大で、多様な自然を見ることができます。しかし、見玉は動物や植物の住処だけではなく、人も共存しています。近くの見玉不動尊は大切に管理されており、町の人と観光客のパワースポットになっています。龍ヶ窪には龍の像などがありますが、このお寺には龍の代わりに大きい蛙の像があります。また、秋の紅葉のシーズンになったら見に行きたいです。

ジオパークには五千年以上の歴史を持つ遺跡があります。お寺は千年以上前からあります。縄文の時代より古くはないけれど、このジオパークで生きてきた人の「文明の変化」を感じられます。それから、隣の栄村の「タイムカプセル館」では昭和の雰囲気を少し体験する事が出来ました。遺跡、寺、美術館などは人為的な物ですが、それでも自然との一体感を感じました。





令和4年度 苗場山麓ジオパーク総会が開催されました

コロナ感染症対策に伴う2年間の書面決議を経て、ようやく7月27日(水)に総会を開催することができました。その総会の「肝」は、ジオパーク活動の本質的意味を考える場であり、その活動を支援する予算審議です。さらに今年度は11月に予定されている「第2回再審査」に向けて提出するべき「プロGRESSレポート2019-2022」の提出合意でした。



レポートの核心は、人口減少する本地域で県境を跨いで未来に向けた地域資源を背景とした「郷土愛醸成と保全活動」の意味を伝えるジオ学習の推進活動です。また一方には、地域資源を保全活用する「観光利用」があります。しかしながら、苗場山麓ジオパークは、第一義的に今までのジオ学習の成果を評価して「教育・学習」環境の整備に、その主体的活動があります。その活動を支えるものが予算です。人口減少の中での捻出する予算は難しい問題を含み、その現実を踏まえ「身の丈」にあった活動を、胸を張って行っていきたいとする内容です。

再審査レポートの内容および各部会活動の報告と今後の活動内容の報告を受け、審議は原則了承を得た後、審議進行の会長から「会長と副会長の判断でレポートを提出する」との発言を得て総会を閉じました。その後、会長の指示で再度、町村教育長から熟読頂き、指導を受けた訂正・修正加筆した後、会長・副会長の決意を得て提出することが決められました。

また、ガイド部会の中澤謙吾氏から「栄村役場前の千曲川岸壁の地質学的調査」と「信濃川・千曲川に残る河川運搬の歴史を刻む船着き場跡の学術的調査」の要望が出されました。この件については事務局としては、学術指導委員会で協議・指導・協力体制を整備した後に計画的に対応したいと考えています。

この他、中津川左岸散策道(石坂～前倉トド～鳥甲牧場～矢櫃村跡)の簡易整備が完了したことを報告しました。現在は教育的使用による特定期間・特定対象者に伴う安全体制整備での使用を進めていますが、近い将来、不特定対象者が使用する観光資源(例えば、スノーカントリートレイルへの移管)と捉えた場合は、観光部局が安全管理整備を行い、登山同様に自己管理の下で積極的に広報・運用することが望まれます。同様な視点は、ジオパーク再審査に深く関わる「観光的改善命令」とリンクする問題です。地域資源の保全と活用の議論において、保全・教育活動を教育委員会で担当し、活用運用・安全管理活動を観光部局で担当し合い、両輪の如く協力して進行する必要がある、それを統合運用するのが事務局だと考えています。



突撃しよう!となりのジオ便り～八峰白神ジオパークからこんにちは～(八峰白神ジオパーク 三輪 拓磨)

秋田県の日本海側北端にある八峰白神ジオパークは、「白神の恵みに生きる」をテーマに活動しています。八峰白神ジオパークの地域は約300万年前から現在まで隆起し続けたために、白神山地の深い谷と崩落地形、海岸・河岸段丘などの多様な地形を有しているのが特徴です。白神山地は平均すると年間約1.3mmの隆起を続け、海岸部では侵食によって地形が変化しています。そのため、海岸で見ることができる段丘は白神山地における隆起の歴史を表しています。また、白神山地の原生的なブナ林を始めとした豊かな生態系と、そこからもたらされる豊富な水が日本海に注ぎ込むことにより、ハタハタなどの豊かな漁場が発達しています。



チゴキ崎

白神山地の地質は硬い火成石ともろい堆積岩で形成され、侵食と地滑りが激しく険しい地形が形成されました。この地滑りがブナの森を育みました。ブナは地滑りが起きた後の日照条件のよい地形に生育します。また、険しい地形は人々の立ち入りを阻み、原生的なブナ林の森を守りました。600万～400万年前に形成されたのが「素波里(すばり)安山岩」の地層です。八峰町ではかつて鉱山や油田が開発されましたが、これらの資源も素波里安山岩の地層があることで溜まったものです。また、この地層はミネラル分を多く含む美味しい地下水を豊富に蓄えています。



白神山地 二ツ森山頂

毎年8月1日の白瀑神社例大祭では、白装束の男衆がみこしを担いだま



白瀑神社 みこしの滝浴び

ま滝つぼに入る勇壮な神事が行われます。この「白瀑」は、段丘の落差を流れ落ちる滝で、水の流れて滝が後退した窪地に神社がつけられました。真夏に訪れると、滝の飛沫による天然の冷房のため、大変涼しく気持ちが良い場所です。この地域の大地の動きは白神山地のブナの森はもちろんのこと、農業、漁業、観光など幅広い恵みを地域全体にもたらし続けています。また、山と海の見どころがコンパクトなエリアに集約しているのも八峰白神ジオパークの魅力です。ぜひ、八峰白神ジオパークを訪れて地球の営みのダイナミズムを体感してみてください。